

タイトル	コロナ禍におけるこども食堂の取り組みに関する一考察：北海道のこども食堂を事例に
著者	伊藤，好一； ITO, Koichi
引用	開発論集(107)： 75-101
発行日	2021-03-17

コロナ禍におけるこども食堂の 取り組みに関する一考察

—— 北海道のこども食堂を事例に ——

伊藤 好一*

はじめに

現在¹、2020年初頭から世界的に深刻化している新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、対人コミュニティの形成は困難を極めている。わが国において広がりを見せているこども食堂の取り組みも当然その影響を受けており、活動休止や会場を設けずに弁当配布などを行う事例もみられている²。

注目すべきは、このような状況下でもこども食堂という名称の取り組みは継続しているという事実である。NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえの箇所数調査によると、2020年10月時点で全国5,086か所のこども食堂が開設しており、そのうちコロナ禍の新設数は186か所となっている³。

コロナ禍におけるこども食堂の取り組みは、新型コロナウイルス感染症拡大により生じた諸問題の影響を受ける子ども達や地域住

民のために様々な内容をもって実施されている。また、対人コミュニティの形成が困難を極める中でもできることを模索し、これまでに形成した人間関係を活かしつつ絶やさないための取り組みとしても続けられているのである。

このような状況をふまえ本稿では、北海道内のこども食堂運営者を対象としたアンケート調査の結果を基に、従来およびコロナ禍におけるこども食堂の取り組み内容を明らかにする。そして、コロナ禍にみられるこども食堂の運営上の変化や新たに生じた課題について考察することを目的とする。

1. 北海道のこども食堂の現状と広がりについて

北海道におけるこども食堂の取り組みは、2015年11月に開設した旭川市北門町の北門児童センターでのこども食堂⁴および同年12月に札幌市豊平区で開設したにじ色こども食

¹ 2020年12月末日時点。

² 例えば、2020年12月29日の北海道新聞では、コロナ禍でも取り組みを続けるこども食堂の実態についての記事が掲載されている。

³ NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえHP参照。

⁴ 北門児童センターでのこども食堂開設の経緯やその後の展開については、今井(2018)を参照されたい。

* (いとう こういち) 北海学園大学開発研究所嘱託研究員

表 1-1 2020 年 10 月時点の道内子ども食堂箇所数

振興局名	市町村名	数	振興局名	市町村名	数	
札幌市	南区	7	日高	新ひだか町	1	
	東区	7	根室	中標津町	1	
	西区	9	十勝	茅室町	1	
	北区	12		幕別町	2	
	豊平区	10		大樹町	1	
	手稲区	3		士幌町	1	
	中央区	8		帯広市	3	
	白石区	7		音更町	2	
	清田区	4		池田町	1	
厚別区	5	足寄町	1			
石狩	当別町	2	空知	夕張市	1	
	千歳市	3		新十津川町	1	
	北広島市	1		浦臼町	1	
	江別市	5		歌志内市	1	
	恵庭市	6		岩見沢市	2	
	石狩市	5		美瑛市	1	
留萌	留萌市	1	宗谷	稚内市	1	
	羽幌町	1		中頓別町	1	
	天塩町	1	渡島	北斗市	1	
	初山別村	1		函館市	3	
後志	蘭越町	1	上川	東神楽町	1	
	余市町	2		名寄町	1	
	寿都町	1		上川町	1	
	倶知安町	1		旭川市	13	
	小樽市	5	オホーツク	湧別町	1	
	岩内市	1		美幌町	1	
釧路	弟子屈町	1	胆振	北見市	5	
	白糠町	1		室蘭市	2	
	釧路町	1		登別	1	
	釧路市	9		苫小牧市	8	
					洞爺湖町	1
計 183 か所						

出所：子ども食堂北海道ネットワーク調べ

堂（現 NPO 法人子どもの未来・にじ色プレイス）が嚆矢とされている。その後、様々な団体によって子ども食堂が開設されている。

表 1-1 は、子ども食堂北海道ネットワーク⁵が調査した道内子ども食堂の箇所数をま

⁵ 子ども食堂北海道ネットワークは、道内の子ども食堂運営者が中心となり結成されたネットワーク組織である。北海道生活協同組合連合会の声かけにより開催された学習・交流会の会内（2017 年 6 月 26 日実施）にて結成された。2020 年 8 月時点では、道内 61 団体が加盟している。（子ども食堂北海道ネット

とめたものである。2020 年 10 月時点で道内 183 か所（札幌市内 72 か所）の子ども食堂が開設している。道内での取り組みの始まり（2015 年 11 月）から数えて約 5 年間で子ども食堂の箇所数が急増していることが確認できる⁶。

急速な広がりをみせている道内の子ども食

ワーク HP 参照。）

⁶ 2019 年の北海道の子ども食堂箇所数は 161 か所であり、約 1 年間でみても 22 か所増加している。

堂であるが、その取り組み内容は決まったものではない。全国的にみても、子ども食堂は明確な基準が定められている取り組みではない。子ども食堂の名付け親である近藤博子氏によると、子ども食堂とは「子どもが一人でも安心して来られる、無料または低額の食堂」と定義されている⁷。農林水産省 HP では、子ども食堂について「近年、地域住民等による民間発の取組として無料または安価で栄養のある食事や温かな団らんを提供する子供食堂等が広まっており、家庭における共食が難しい子供たちに対し、共食の機会を提供する取組が増えています。」と記載されている。

子ども食堂の取り組みについて、近藤氏や農林水産省の定義および「“子ども” “食堂”」という名称であることをふまえると、少なくとも「食事提供」と「子どもの参加を拒否しない」という共通項があると考えられる。しかし、だからと言ってこれらをすべて満たしていなければ子ども食堂の取り組みとして不十分であるとするものではない⁸。

子ども食堂は、子ども達や地域住民に対する食事支援や居場所づくりとしての意義もさることながら、取り組みを通じてなかなか見えにくい社会的課題を明らかにしつつ課題解決を目指して地域コミュニティの連携が深め

られるというその過程にも意義を見出せる⁹。筆者はその点をふまえ、子ども食堂は「子どもの貧困」をはじめとした様々な社会的課題の解決をテーマに新たな地域コミュニティの形成・発展を図る取り組みであり、それが広がりを見せているという現状に着目すべきであると考ええる。また、テーマとする社会的課題は子ども食堂が開催される地域や参加者の状況によって変化するものであり、それが子ども食堂の取り組み内容の多様性・柔軟性として表れているとも考える。そのため、子ども食堂の運営者ももつ問題意識や団体の運営方法、取り組み内容についての調査・分析は、地域コミュニティの課題やあり方について検討する際に有益な示唆をもたらすものと考えられる。

そして現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け子ども食堂における対人コミュニティの形成が困難を極めている。しかし、子ども食堂の取り組みはそのような状況下でも柔軟に対応・変化して継続されている。その取り組み内容について明らかにするべく、筆者は北海道内の子ども食堂運営者に対しアンケート調査を行った。次章では、そのアンケートの調査結果についてみることにする。

⁷ここでの定義は近藤氏が講演会などで用いているものである。近藤氏が運営する子ども食堂だんだんの取り組みなどについては近藤(2016)を参照されたい。

⁸子ども食堂北海道ネットワークでも、子ども食堂としてネットワークに加盟するための条件は設けられてはいない。表1-1の箇所数調査においても、あくまで各運営者の自己申告に基づいた集計結果となっている。

⁹筆者は伊藤(2019)にて、子ども食堂のもちうる3つの機能として①支援機能、②コミュニティ機能、③ファシリテーション機能を提起した。特にファシリテーション機能については、協力者や専門家など運営者ではない人々との関係構築を通じて、子ども食堂の取り組みからみえる課題を社会化させる点で重要な機能である。

2. 道内こども食堂を対象としたアンケート調査結果

本章では、従来（コロナ禍前）およびコロナ禍におけるこども食堂の取り組み内容等を明らかにするべく実施した「北海道のこども食堂活動内容調査（以下、A アンケート）」および「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う道内こども食堂の現状調査（以下、B アンケート）」に対する各こども食堂運営者の回答をみることにする。

A アンケートの実施概要、回答項目は以下の通りである。

実施概要

「北海道のこども食堂活動内容調査」

調査期間：2019年9月9日～11月末日。

回答数：27団体（札幌市内16団体、市外11団体）

調査団体の選定：こども食堂北海道ネットワークに加盟する団体。

回答項目

A-1：活動概要

a：住所，b：活動日時，c：食事代金，
d：平均参加人数，e：スタッフ数，f：
法人格の種類

A-2：協力・支援団体について

名称（内容・金額）

A-3：活動内容

A-4：食堂活動以外の取り組みや他団体との連携

B アンケートの実施概要、回答項目は以下の通りである。

実施概要

「新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う

道内こども食堂の現状調査」

調査期間：2020年6月22日～7月末日。

回答数：37団体（札幌市内27団体、市外10団体）

調査団体の選定：こども食堂北海道ネットワークに加盟する団体を主とする。その他、こども食堂北海道ネットワークと親交のある団体（1団体）にも調査を依頼。

回答項目

B-1：緊急事態宣言期間中（2020年4月17日～5月31日）の活動状況

B-2-1（活動していた）：実施内容

a：食事代，b：利用者，c：食事提供数，d：感染予防について

B-2-2（活動していなかった）：活動しなかった理由

B-3：緊急事態宣言解除後（2020年6月1日以降）の活動状況

B-4：活動実施もしくは再開にあたり課題や不安に感じること

2-1. 札幌市内で活動するこども食堂

2-1-1. 厚別区（2団体）

「コミュニティサロンあじさい食堂」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：100円，b：子ども35名，大人31名（保護者24名，独居高齢者7名）・スタッフ20名交代，c：66食，d：コミュニティサロンですので確定した人はいませんが、昨年の10月からの参加者名簿に基づき「弁当の配布をします」と声をかけ、注文をとって実施。帰宅の遅い保護者もいますので、食堂実施の時間帯と同じ夕食と

して4時半から5時の間で配布。4月は週2回実施しましたが、食数が初めは25食位であったのが徐々に増え、70食前後となりボランティアにも疲れが見えてきたので5月からは週1回にて実施しました。みなさん待っているんですよー。

B-3：5月と同じく週1回の配布を続けてきましたが、牛乳、お菓子等の添付ものがあり、久しぶりの子が顔を出して増えだしたのと、一緒に夕食をとる家族の分も、と希望され100食以上にもなり、100食で切りました。何度かありましたが、6月26日は67食に落ち着きました。

B-4：本当は食堂を再開したいのですが、コミュニティサロンとして開催しておりますので検温・消毒はもっともですが、狭い場所利用での遊びのコーナーで「遊んではいけません」帰りが遅くなった保護者が保育園や自動会館から子どもの迎えかけ込んでくる親子、孫のような子ども達とお話を楽しむに来るお年寄りに机を2人掛けにして「お喋りはいけません。背中あわせで食べて下さい」ではコミュニティサロンの意味がなさなくなり、踏み出せないでおります。

「こども食堂もくきち」(A, B)

A-1：a：札幌市厚別区厚別中央4条4丁目1-21, b：第4木曜日16時～21時, c：子ども200円, 大人500円(子どもと一緒に参加した大人300円), d：(子ども)25～30名, (大人)2～5名, e：10名, f：なし

A-2：札幌市(サポートほっと基金17万円), 企業(10万円), JA北海道(お米年

間120キロ), ホクレン(お肉年間10キロ), 当別町農家(野菜), 北海道教育大学(学習支援), コンサドーレ(スポーツ支援)

A-3：食事提供, 遊び場の提供, 学習支援(小学・中学), 体験活動(ハロウィン), 食事・調理に関する情報提供(子ども対象), ボランティアの受け入れ(一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ, 子どもの送迎, 農家など生産者との交流

B-1：活動していなかった

B-2-2：こども食堂の開催会場においては「三密」を避けられないため。もし活動して、新型コロナウイルス感染者が発生した場合、今後活動ができなくなる可能性があるため。新型コロナウイルス感染への不安から、こどもや家庭が安心して来店できる環境(風潮)でないため。

B-3：前述の理由から解除後においても月1回の「こども食堂」については、年内の開催は難しいと考えている。食事の提供はできないが、外でのイベント(七夕まつり8月8日, ハロウィンパーティー10月25日など)については、感染予防対策を講じた上で開催する予定である。

B-4：新型コロナウイルス感染への不安が払拭されず、こどもや家庭において「こども食堂」そのものが、安心して集える場所でないと思われることを懸念している。「三密回避」「ソーシャルディスタンス」の確保とそのため施設整備費の捻出が課題である。

2-1-2. 北区（5団体）

「NPO法人 kacotam」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：食事提供一定期間なし，b：子ども3～6名，スタッフ3～6名，d：消毒作業，距離をあける，手洗いを徹底，マスク着用

B-3：通常通り実施（学習支援と食事提供）

B-4：資金

「Tomonaru こひつじクラブ」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：その他活動 公園で遊んでいました。（少人数。もともと遊び中心なので。学習支援はその子の家で），b：子ども3～4名，大人0名，スタッフ2～3名，c：0食，d：全員の手指の消毒

B-3：（毎週開催なので）6週間ぶりに会館の中で行っています。ご飯も提供しています。ただし，家庭の了解がある子のみ10名前後です。チラシなどの宣伝は自粛しています。

B-4：一緒に関わって遊ぶことを大切にしているので，距離を取るのには正直難しいです。安全を優先するあまり，子ども達自身の安心や安定を損なわないようにと思っていますが，こちらができるだけ気をつけて，子ども達にはなるべく不安を与えないようにしたいです。

「こども食堂りあん」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：100円，b：子ども30名（スタッフ5名），c：30食，d：スタッフのマスク着用，手指のアルコール消毒

B-3：店内が狭いため，三密を防ぐ事ができずお弁当を配布しているが，子どもの居場所としての機能が果たせていない。

B-4：三密を防ぐにはどうしたら良いか。お弁当の配布で，子どもたちの様子がわかりづらくなった。

「新琴似・子どもと家族の食堂“キラッと!!”」（A，B）

A-1：a：札幌市北区新琴似10条2丁目1勤医協札幌北区ほぶらクリニック内，b：毎月第3土曜日11時～12時30分，c：子ども0円，保護者200円，d：（子ども）20名，（大人）10名，e：10名，f：なし

A-2：コープさっぽろ（コープ地域福祉助成5万円），札幌まるやまライオンズクラブ（子育て支援プロジェクト4万円）

A-3：食事提供，ボランティアの受け入れ（一般），農家など生産者との交流

A-4：他のこども食堂・団体への橋渡し（橋渡し先：多数あり），フードバンク・おすそ分け

B-1：活動していなかった

B-2-2：緊急事態宣言が発令されていたから。

B-3：6月及び7月は弁当。テイクアウト方式で再開する。6月については焼きそば+唐揚げの弁当を業者に委託する。7月はカレーライスでいつもの会場にて調理してテイクアウト。8月はもともと休みの月。

B-4：9月から行うが，テイクアウトにするかいままで通りにするかを検討中。いままで通りに会館で食べるにしても10人程度ずつ時間をずらして行う必要を感じる。

が、そうなると4～5時間かかってしまう。

「こども食堂よるちせ」(Bのみ)

B-1: 活動していた

B-2-1: a: 子ども無料, 大人300円(シングル世帯無料), その他活動(食材配布, 郵送, フードドライブ, こども服お下がり会), b: 子ども41名, 大人19名(スタッフ8名), c: 60食, d: 会場玄関での受け渡し, 予約時間の調整をして受け取り人数を重ならないようにした。

B-3: 7月まで弁当配布。8月から少人数, 予約制で食堂再開を考えています。学習の遅れを心配する保護者・子どもも多いので学習支援も同日開催予定です。

B-4: ソーシャルディスタンスをとりながらの食事や遊びを楽しむ形にするには, どうしたらいいか考えています。会場を借りているのでクラスターを出してしまったら…と不安でいます。

2-1-3. 清田区(2団体)

「ぼっけ・こども食堂」(A, B)

A-1: a: 札幌市清田区清田1条2丁目2-2地域さろん・ぼっけ, b: 毎月第3水曜, 第4火曜(17時～19時), 夏・冬休み企画, 休み中2～3回, c: 小・中学校100円, 高・保護者200円, 一般500円, 70歳以上300円, d: (子ども)15～25名, (大人)10～20名, e: 10～13名, f: NPO法人

A-2: (糶)えび膳(毎月豚肉4キロ), 東米里の農家(毎年玉ねぎ大量), 事務所ベジタブル(欲しい時連絡して取りに行く), 地

域の方(現金や家庭菜園の物を届けてくれる)

A-3: 食事提供, 遊びの場の提供, 傾聴, 食事・調理に関する情報提供(大人対象・こども対象), ボランティアの受け入れ(一般・学生), 聞き取り調査・見学の受け入れ

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 隣接する建物が介護福祉施設になっており, 関わるスタッフも「介護」に携わっております。未知のウイルスには神経質になっております。特に子ども食堂は, 三密の解消は難しい。ボランティア, スタッフを守る観点から, 現在は子ども食堂だけではなく, 地域活動のサロン企画すべてを中止しています。

B-3: 相変わらずまだ再開できずにいます。今まで頂いたマスク, お菓子類はセットにして保護者に連絡をとり, 全て手渡すことが出来ました。保護者からは感謝の言葉を頂きました。

B-4: 三密をどうしたら防げるのか, スタッフやボランティアの負担はどうなるのか?

「ひらおか子ども食堂b」(A, B)

A-1: a: 札幌市清田区平岡3条5丁目3-1イオン札幌平岡店内, b: ほぼ第3金曜日16時30分～18時30分, c: 中学生まで100円, その家族200円, d: (子ども)23～28名, (大人)12名, e: 20名, f: NPO法人

A-2: 北海道労働金庫(北海道ろうきん社会貢献助成), 北海道NPOファンド(越智基金), 札幌市清田区(名義後援), 札幌国

際大学品川ゼミ（学生ボランティア2名参加）、農家（吉岡さん・野菜提供）、イオン平岡店員さんたち（募金箱：食堂、事務所に各1個）

A-3：食事提供、遊び場の提供、傾聴、学習支援（小学）、高齢者と子どもの交流、ボランティアの受け入れ（学生・一般）、聞き取り調査・見学の受け入れ、農家など生産者との交流、その他（昔遊び等、体を使い人と触れ合う遊びの体験）

A-4：助け合い活動、地域交流サロン活動

B-1：活動していなかった

B-2-2：イオン平岡店とも協議し、感染予防のため休止。

B-3：7月末にテイクアウト弁当を配布予定。同時に、夏休みに自由研究用工作キットや寄贈された菓子類も配布、プレゼントし子ども達の笑顔を取り戻す。

B-4：食材を提供するだけではなく、交流の機会を取り戻す方法はないものか？と思案中。

2-1-4. 白石区（6団体）

「北郷わいわい子ども食堂」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：子ども100円、大人300円、b：子ども20名、大人15名（スタッフ9～11名）、c：45食、d：マスクの着用と手洗い、容器の除染

B-3：当分、お弁当で対応するつもりです（7月末日位まで）。

B-4：ボランティアさんの感染に不安を感じている。

「北郷北13条通沿子ども食堂」（Bのみ）

B-1：活動していた

B-2-1：a：280円、その他活動（弁当の他、おもちゃ、常備わかめごはんなど同時配布）、b：スタッフ3名、c：5月31食、6月16食、d：3月4月は中止いたしました。密を避けるため。

B-3：弁当の配布、毎年7月は子ども夏祭りですが、今回は北13条通沿の飲食店5店舗による味自慢オリジナル弁当を140食配ります。

B-4：感じたので、3月4月は自粛致しましたが周りの状況を見て、8月くらいには再開したいと思います。

「子ども食堂げんき」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：感染予防の観点から、会場が借りられなかった。

B-3：6月25日、炊き込みご飯をお弁当にして配布した。

B-4：子ども達が集まると遊びたくなるし、密の対応をどうしたら良いか。

「地域食堂ポレポレキッチン」（A、B）

A-1：a：札幌市白石区栄17丁目1-26 スープカレーポレポレ内、b：月1回金曜日18時～20時（2019年4月～9月）、c：大人500円、小中高生・福祉手帳300円、d：（子ども）8名、（大人）29名、e：5名

A-3：食事提供、傾聴、高齢者と子どもの交流、体験活動（就労体験等）、食事・調理に関する情報提供（大人対象）、子どもの調理体験、ボランティアの受け入れ（学

生・一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ, その他(居場所, コミュニケーションの場, 食生活のお手伝い)

B-1: 活動していた

B-2-1: a: 150~300円, b: 子ども11名, 大人32名, スタッフ5名, c: 43食, d: 三密を避け, マスクの着用を周知し, 手指の消毒, 調理器具テーブル等の消毒もこまめに行った。外出が不安な高齢者等には弁当を届けた。お弁当の配布によって新しい参加者が増え活動を広げる機会になった。

B-3: 6月・7月は札幌市の支援をいただきながらお弁当の販売を行いました。8月以降についての開催は悩むところです。今まで関わってきた子どもたちとのつながり, コロナ終息後の居場所の確保となるよう, 食事の提供にかわるものとして月に一度を顔を合わせる対応を検討中, 少しでも地域の方々の支えになれるよう, 笑顔と元気をお届けしたい。

B-4: 感染防止策, 費用, お弁当の配布数, 食中毒。

「トロワの畑こども食堂」(A, B)

A-1: a: (昼支援) 白石区本郷通6丁目北1-23 えこふりい, (朝支援) 白石区南郷通12丁目南5-7 フレクション南郷1階, b: (昼) 毎月第3日曜日, (朝) 火曜日不定期, c: 5円(終了時返金), d: (子ども)(昼)10名, (朝)5名, (大人)(昼)3名, (朝)0名, e: (昼)6名, (朝)2名, f: なし

A-2: 札幌市(地域福祉振興助成金12万円), コープさっぽろ(地域福祉助成10万

円), 生活クラブ生協協同組合(福祉基金10万円), 共働学舎新得農場(食材), 近所の方(食材)

A-3: 食事提供, 傾聴, 子育てに関する情報提供・共有, 体験活動(農作業), 食事・調理に関する情報提供(大人・子ども), 子どもの調理体験, ボランティアの受け入れ(学生・一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ, 農家など生産者との交流

A-4: 他のこども食堂・団体への橋渡し(先: 子どもの未来・にじ色プレイス), フードバンク・おすそ分け, その他(ママ支援カフェ, ネットワーク事業)

B-1: 活動していた

B-2-1: a: 子ども5円, 保護者300円, その他(食材, お菓子, 子ども新聞の配布), b: 子ども13名, 大人4名(スタッフ2名), c: 17食×4回, d: マスク着用, アルコール除菌の徹底, 以前との変化: 食堂内での食事・行事の中止

B-3: 通常開催に戻したが, 子ども達の調理は中止した。席と席を少し離れた。マスク必須。アルコール除菌の徹底。開催の広報を控えている。

B-4: 誰が感染源になるかわからない点。いつも参加する子が来なかった点。予約制にしていない事から, 子ども達の参加が増えた場合の対応未定。

「みんなの食堂きらり」(A, B)

A-1: a: 札幌市白石区菊水4条1丁目8-17 菊水ビル3階, b: 毎月第3土曜日16時~18時, c: 子ども50円, 大人(高校生~)200円, ボランティア200円, d:

(子ども) 10~15名, (大人) 24名, e: 20~25名, f: なし

A-2: 勤医協在宅セントラルキッチン(会場, 設備の利用, 食材購入), 勤医協札幌病院, 札幌無料診療所, ひまわり薬局, 白石健康友の会(宣伝, 施設利用, ボランティアなど), 生協福祉基金(今年度10万円), 白石社会福祉協議会(不動産会社より年間12万円: 札幌オーナーズ)

A-3: 食事提供, 遊びの場の提供, 傾聴, 高齢者と子どもの交流, ボランティアの受け入れ(一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ, 農家など生産者との交流

A-4: 他のこども食堂・団体への橋渡し, フードバンク・おすそ分け

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 食場としているみずほ食堂の入ったビルを管理している勤医協札幌病院が外部の使用を禁止していたため(食堂は営業していました)。

B-3: 6月の末に寄贈していただいたお米とマスクを数件に配布, 参加者へのハガキ郵送。8月1日に外で, きらりとして, 河川敷で開催予定。食事については外部の弁当を使用

B-4: 運営委員のメンバーに勤医協関係が多く, 感染, 食中毒が発生しては大変なのでこれまでの形では続けられないと思っています。

2-1-5. 中央区(1団体)

「行啓通り子ども食堂」(Aのみ)

A-1: a: 札幌市中央区南14条西7丁目2-2, b: 毎月第4土曜日15時30分~18時

30分, c: 子ども無料(中学生以下), 保護者200円, 高校・大学生100円, 大人500円, d: (子ども) 20名, (大人) 10名, e: 8名, f: なし

A-3: 食事提供, 遊び場の提供, 傾聴, 子どもの調理体験, ボランティアの受け入れ(学生)

2-1-6. 手稲区(2団体)

「こども食堂ぐれ〜す」(A, B)

A-1: a: 札幌市手稲区曙2条2丁目4-15, b: 第1, 第2, 第3水曜日16時~19時15分, c: 子ども100円, 大人300円, d: (子ども) 17名, (大人) 8名, e: 10名, f: なし

A-2: 新篠津農協(お米毎月10キロ), 八屋耕也さん(LINEにアップされた野菜が必要な時に連絡して取りに行く)

A-3: 食事提供, 遊び場の提供, 学習支援(小学), ボランティアの受け入れ(学生・一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ, 農家など生産者との交流

A-4: その他(手稲区母子会学習支援会場へ4月と12月に出張調理, 手稲区成人式での振袖無料レンタル支援)

B-1: 活動していた

B-2-1: a: 100円, b: スタッフ毎回7~8名, c: 222食(期間中5回開催), d: 調理前の厨房掃除を念入りにし, 消毒もこまめにした。厨房内も密にならないように1時間早く作り始めて, 前半, 後半に分けて3, 4人ずつで調理した。

B-3: お弁当販売を続けている。様子を見て集まっても大丈夫な見極めができるまでは

お弁当にしていく。月4回のうち、2回は手稲区母子会の方を含め、ひとり親家庭の日を設け、1回につき60人分位作るので需要の多さを感じている。

B-4：2月までのこども食堂は25～30名ほどの来店でしたが、仕事しているお母さんは弁当を買って家でパッと食べたいかなと思うと、経済的支援もあり100円で提供してきたが、みんなで集まって一緒に食べる場所が良さのこども食堂の意義がなくなるのではないかと思う。

「ていねコミュニティカフェめりめろ」(A, B)

A-1：a：札幌市手稲区手稲本町1条3丁目3-1 メディカルスクエア手稲2階，b：①(ていね夕暮れなごみ場) 第4水曜日17時～20時，②(ほっとるーむソアレ) 第1・3月曜日17時～20時，c：①大人500円，子ども300円，幼児無料，②無料，d：(子ども) ①6名，②4名，(大人) ①5～8名，②3名，e：①6名，②4名，f：一般社団法人

A-2：太陽グループさぽーとほっと(スタッフ謝金)，北海道労働金庫(スタッフ，講師謝金)，B型事業所ハーベスト(たいやきの無料提供)，北海道こども食堂ネットワーク(米，野菜の無料提供)

A-3：食事提供，遊び場の提供，傾聴，学習支援(小学・中学・高校)，子育てに関する情報の提供・共有，高齢者と子どもの交流，体験活動(工作，もちつき)，食事・調理に関する情報提供(大人対象・子ども対象)，子どもの調理体験，ボランティアの受け入れ(学生・一般)，聞き取り調

査・見学の受け入れ

B-1：活動していなかった

B-2-2：感染拡大防止のため。

B-3：7月より再開予定。第3波が懸念される状況の場合は延期します。

B-4：日中のカフェと予防策を実施することで対応とする。不安は常にあります。

2-1-7. 豊平区(4団体)

「りんごの巣」(Bのみ)

B-1：活動していなかった

B-2-2：場所が公民館のため閉鎖されていました。

B-3：寄贈品，カンパやエコ活動の資金で食料品など購入したものを袋詰めし，開催日に取りに来てもらいました。また，学習支援(まなとぴあ)の方は教室に届けました。

B-4：感染リスクの高い高齢者が主体でやっているので常に不安です。会場が公民館のため閉館になると全ての作業ができなくなります。

「地域食堂かば亭」(A, B)

A-1：a：札幌市豊平区月寒東4条18丁目7-6 東月寒白樺会館，b：毎月第3火曜日17時～20時，c：幼児無料，小中高生100円，保護者200円，大人500円，d：(子ども)70名，(大人)30名，e：20名，f：NPO法人

A-2：東月寒地区町内会連合会(寄付金)，北海道新聞社会福祉振興基金(助成金)，こども食堂北海道ネットワーク(情報提供，学習・交流，連携ほか)，おてらおや

つクラブ（お菓子，飲料），卵らん農場ムラタ（卵），新篠津農協（米：毎月10キロ），セブンイレブン（飲料ほか）

A-3：食事提供，遊び場の提供，子どもの調理体験，ボランティアの受け入れ（一般），聞き取り調査・見学の受け入れ，子どもの送迎

B-1：活動していた

B-2-1：a：0円，b：子ども100名，大人95名（スタッフ5名），c：200食，d：事前予約受付を行い，申込者の情報が正確に把握できるようにし，配布時に予防対策を行った。食堂には参加していない家庭からの申し込みが多数あった。

B-3：弁当配布

B-4：弁当配布の場合は食中毒が心配。無料にしていることもあり，経費がかかる。いつから食堂を再開できるか時期の見極めと感染対策が課題。

「NPO法人ねっこほっこのいえ」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：子ども未来局が管轄になるので，未来局の指示にならない。

B-3：6月は中止。7月以降については未定。未来局の指示になります。

B-4：やはり消毒や検温など対策したとしても，感染が出た場合とても不安。

「びらけしみんな食堂」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：びらけしが休業していたことと，密になるので自粛していた。（幼児～高齢者と年齢層が幅広いので）

B-3：お弁当の配布をしている。

B-4：どうしても密集してしまうので，どのように，食事をしてもらうのに工夫するか情報交換したい。

2-1-8. 西区（4団体）

「あかはな子ども食堂」（A，B）

A-1：a：札幌市西区西町南9丁目2-2西町会館，b：毎月第2金曜日17時～20時30分，d：（子ども）23名，（大人）20名，e：4名，f：なし

A-2：札幌市（さぼーとほっと基金10万円），NPO北海道ネウボラ（開催時に子育て相談室の開催）

A-3：食事提供，遊び場の提供，子育てに関する情報提供・共有，体験活動，ボランティアの受け入れ（学生・一般）

A-4：Sapporoチャイルド・ライツ

B-1：活動していた

B-2-1：その他（YouTubeにて動画配信）

B-3：会場である西町会館と相談して実施。6月12日開催は子ども未来局の補助金を利用し，お弁当の配食。オンラインのZOOMを利用して行った。

B-4：代表，副代表ともに福祉従事者のため，またスタッフにも医療従事者が居るため課題，不安。活動のことについては特にない。しかし居場所がなくなった子ども，負担が増えた保護者について支援のあり方，情報について不安課題があると感じる。

「こども食堂わいわい」（A，B）

A-1：a：西区発寒5条4丁目カントリーハ

ウス, b: 毎月最終日曜日 9 時~15 時,
c: 幼児無料, 小中学生 200 円, 高校生以上 300 円, d: (子ども) 7~8 名, (大人) 高齢者含め 15~16 名, e: 5~6 名,
f: なし

A-3: 食事提供, 高齢者と子どもの交流, ボランティアの受け入れ (一般)

A-4: フードバンク・おすそ分け (今後の課題です)

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 新しい場所に移り名前もキリンを除き, こども食堂わいわいとし, スタッフも 10 名となり準備をしましたが, 活動場所が利用できず休んでいました。

B-3: 6 月にこどもクラブの児童にお弁当を提供しようと段取りをしましたが, 受け入れ先よりコロナの心配のため拒否されたので何もせず, 次回のために準備をしていました。6 月 27 日第 1 回を実施しました (新しい場所)。

「西野こども食堂 kaokao」(A, B)

A-1: a: 西区西野 8 条 9 丁目 18-67 西野厨房だんらん, b: 毎週水曜日 14 時~20 時, c: 子ども 300 円, 大人 500 円, d: (子ども) 30 名, (大人) 5 名, e: 10 名, f: NPO 法人

A-3: 食事提供

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 札幌市からの活動自粛要請により休止した。

B-3: 7 月 1 日から広く広報はせずに始めることにした。休止期間中, 子どもから「やっ

ているのか」「いつからやるのか」問い合わせがあり開くことにした。

B-4: 別がない。注意を払いつつ, 普通にやっていきたい。

「みんなの食堂ヤッホー三角山」(B のみ)

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 三密になることと飲食は感染対策上, 困難であった。企業から提供のあったお菓子を宅配する取り組みを 1 回行なった。

B-3: 6 月末に札幌市の助成金を活用し, 弁当の配布を会館に取りに来てもらう形で実施した。今後も月 1 回開催できればと考えている。

B-4: 感染対策には十分に配慮した。コロナ禍は長く続くと思われるので「ヤッホー三角山」が果たしてきた役割をどういう形で継続していくのか検討が必要だと感じる。

2-1-9. 南区 (2 団体)

「子ども食堂いるか」(A, B)

A-1: a: 札幌市南区真駒内南町 4 丁目 4-21, b: 毎月第 3 火曜日 16 時 30 分~18 時 30 分, d: (子ども) 15 名, (大人) 30 名, e: 10 名, f: なし

A-2: 個人 (野菜・米)

A-3: 食事提供, 傾聴, 子育てに関する情報の提供・共有, 高齢者と子どもの交流, ボランティアの受け入れ (一般)

A-4: 他のこども食堂・団体への橋渡し (先: 子ども食堂げんき), フードバンク・おすそ分け

B-1: 活動していなかった

B-2-2：安心，安全を確保できないと判断したため。

B-3：6月16日（火）無料お弁当80食の提供。7月21日（火）無料お弁当80食の提供予定。いずれも子ども食堂で調理し，玄関で氏名記入した用紙と引き換えに手渡し。

B-4：50食提供で準備に来たが，取りに来たいという反応が多く80食作り提供した。が，密にならない様にお渡しする方法と何かあった場合を個人の追跡ができる方法を考え対応したが，不安はあった。

「真駒内子ども食堂みんなの子」(A, B)

A-1：a：札幌市南区真駒内上町3丁目2-12ユニバーサルカフェ minna, b：毎月第3金曜日15時～19時, c：300円, d：(子ども)17名, (大人)13名, e：5～6名(17時, 18時で上がるスタッフもいます), 登録スタッフ：40代5人, 50代1人, 高校生1人, 20代1人, 70代1人, f：なし

A-2：H30年9月19日 NPOサポートセンター 5,000円(「子ども食堂ってどんなものなのさ」のインタビューにお答えしての謝礼金), H30年10月11日 札幌市社会福祉協議会 50,000円

A-3：食事提供, 遊び場の提供, 傾聴, 子育てに関する情報提供・共有, ボランティアの受け入れ(学生・一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ

B-1：活動していた

B-2-1：a：平均450円(2月までは食堂として活動しました。3月～6月はお弁当の

配布です), b：子ども25名, 大人15名(保護者10名・個人の大人5名), スタッフ：キッチン5名, 清掃1～2名 計7名, c：40食, d：キッチン回りの三密を避けるため, ボランティアの方々に退いて頂き5人体制(怖がっていた方もいたので問題ありませんでした)。調理班と清掃班と2部制にして時間をずらし人数を減らすようにしました。

B-3：食堂形式では子どもたちがくっついて遊んでいますので, お弁当形式でやるしかないのではないかと話し合っています。

B-4：コロナの感染者が出る事がなんといっても不安です。今後, お弁当の配布の評判が広がり40食以上, 50食までは今の体制でいけると思いますが, もっと増えると断らなくてはならないかもしれないのが課題です。

2-2. 札幌市外で活動することも食堂

2-2-1. 足寄町(1団体)

「ひまわり食堂足寄」(A, B)

A-1：a：足寄郡足寄町南3条2丁目 老人憩の家, b：毎月第3土曜日11時～15時, c：子ども無料, 大人200円, d：(子ども)約15名, (大人)約15名, e：役員10名, ボランティアスタッフ総勢24名(当日参加は10名ほど), f：なし

A-2：足寄町(会場費, 光熱費, 保険料), キューピー未来財団(20万円), 一般会員(年会費1,000円×30名ほど), 賛助企業会員(年会費5,000円×20団体)

A-3：食事提供, 高齢者と子どもの交流, ボランティアの受け入れ(一般)

B-1：活動していなかった

B-2-2：いつも使用している施設が閉鎖されたこと、コロナ対策のための三密を防ぐために40人位の参加者を一同に集めることは難しかった。

B-3：3月～5月までは開催は出来ず、6月は小規模でも開催しようと考えていた矢先に振興局を通じて赤い羽根共同募金協会様から弁当代の支援がありました。なので、6月と7月も、同社からの支援のもと、参加者に弁当を配達できました。

B-4：昨年のオープン以来、順調に10回まで開催できましたが、コロナ禍以降、開催は中止となり、施設は再開できましたが、この状況で三密は防げるのか一番心配です。8月はどのように実施したら良いか思案中です。

2-2-2. 旭川市（2団体）

「無料学習支援とご飯と遊びの場 おむすびころりん」（Aのみ）

A-1：a：旭川市南地区、c：月1回日曜日 12時～16時30分、c：無料（募金箱にお気持ち）、d：（子ども）15名、（大人）10名、e：10名、f：なし

A-2：旭川市役所（地区センター代を年間3万円まで、保険代）、おてらおやつクラブ（おやつ）、おとな食堂（食材、単発で今まで農家や障害者の事業所からお米や野菜、きのこなどいただいたことあり）

A-3：食事提供、遊びの場の提供、傾聴、学習支援、子育てに関する情報提供・共有、体験活動、子どもの調理体験、ボランティアの受け入れ（学生・一般）、聞き取り調査・見学の受け入れ、農家など生産者との

交流

A-4：フードバンク・おすそ分け

「こども食堂みんなのカフェ銀座」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：新型コロナウイルス感染予防のため活動の自粛。

B-3：現在9月に再開する予定で調整している。

B-4：感染予防の対策や消毒を行いながらの活動再開になるが、今までとは違う形を模索しながらクラスターが出なければいいが…。

2-2-3. 石狩市（1団体）

「まるくるこどもカフェ」（A、B）

A-1：a：北海道石狩市花川北3条3丁目1番地、b：毎月第4火曜日17時～19時、c：大人500円、保護者400円、小～高校生100円、幼児無料、d：（子ども）8名、（大人）8名、e：6名、f：NPO法人

A-2：石狩市・子どもの居場所づくり推進事業（保健福祉部子ども政策課・食材費等の助成）、とれのさとJA石狩（野菜の寄付）、ハンズハーベスト（食品の寄付）、北海道こども食堂ネットワーク（食品の寄付）

A-3：食事提供、遊び場の提供、傾聴、体験活動（読み聞かせ）、食事・調理に関する情報提供（大人対象）、ボランティアの受け入れ（一般）、聞き取り調査・見学の受け入れ

A-4：学習支援

B-1：活動していなかった

B-2-2：石狩市の助成を受けている事業のため、市の判断に従った形になった。不特定の方が出入りすること、会場が狭いこと、食品を扱うことなどの理由により、市の判断がなくても中止にしていたと思う。

B-3：6月23日（火）に5ヶ月ぶりに開催しました。2Fスペースも利用するなど密を避け、ボランティアさんには手洗い、消毒、手袋着用などお願いし、窓を開けっ放しにしました。

B-4：特になし。

2-2-4. 恵庭市（1団体）

「デリスホーム」（A, B）

A-1：a：恵庭市黄金北会館, b：毎週木曜日 15時～19時, c：子ども100円, 大人300円, d：（子ども）6名, （大人）3～4名, e：4名, f：NPO法人

A-3：食事提供, 託児, ボランティアの受け入れ（一般）, 子どもの送迎

B-1：活動していなかった

B-2-2：保護者の方より、心配なのでお休みしますとの連絡があり、諸々のことを考え休みということにしました。また、町内会館を借りての開催のため自粛した方が良いということに至りました。

B-3：6月18日より再開しています（毎週木曜日）。

B-4：まだ収束されていないため、感染者が出る事が何よりも心配です。ボランティア離れ、新規ボランティア募集が課題と感じています。

2-2-5. 江別市（3団体）

「北翔大学子ども食堂・地域食堂居場所づくり支援研究・実践グループ」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：飲食を伴うイベントなので、参加者及び運営者の安全を考慮した結果、実施しない判断となりました。

B-3：当面は再開の見通しは立っておりません。10月以降、状況を見ながら徐々に再開できればと思っておりますが、飲食を伴わない形でのイベント企画になるだろうと見込んでおります。

B-4：会場のフロア及び階段等が非常に狭いため避けるべき密の状態を生んでしまうと考えています。それを回避しなければ再開は難しいと思っております。たくさん来てほしいけどたくさん来たらどうしようという葛藤があります。

「にこにこ食堂 江別更正保護女性会」（Bのみ）

B-1：活動していなかった

B-2-2：毎回使用させていただいていた施設、地区会館共に休館のため場所がなかった。学校休校のためホームステイ（ステイホーム？）の児童が多く食堂開催して喜んでもらいたかったですが、やはり、子ども達の安全を考えて、外で開くことも中止した。

B-3：解除されたので6月27日（土）今年度初めての開催を考えましたが、やはり今まだ中止にした方が安全と話し合い、7月25日（土）としました。

B-4：7月25日（土）に予定しておりますが、やはりマスクを着け、手洗いを実行し

てもらい子ども達が密にならない様に、また時間もいつもより短くと考えております。

「子ども・地域食堂ななかま堂」(Bのみ)

B-1: 活動していた

B-2-1: その他(食材配布), b: 子ども15名, 大人10名(スタッフ2名), c: カップ麺等100食と, いただいたスープ300食, お菓子等, d: 食材配布は外の駐車場で行き, マスク, 手指の消毒をして配布しました。6月の時は入口で熱感知カメラを使い, 検温もしています。

B-3: 6月から再び始めていますが, 6月は食事なしで頂いた食材配布と遊びの提供とおもちゃ(シャボン玉)を子ども達に配りました。(スタッフ9名, 参加者40名)

B-4: 7月からは食事を始めますが, 食事担当の方が赤十字の高齢者が多いので(70代~80代), 感染しないか心配しています。また食事の際はある程度, 人数制限が必要と感じています。

2-2-6. 帯広市(1団体)

「おびひろ子ども食堂」(Aのみ)

A-1: a: 帯広市西21条南3丁目15-26, b: 第3土曜日12時30分~13時30分(その後あそびなどOK), c: 子ども無料, 保護者300円, d: (子ども)20~30名, (大人)20名, e: 10名, f: なし

A-2: (株)福原(食材: 毎回), (株)マノス(どろ豚: 使う時), 個人(宮前様: 食材), 鎌田きのこ(十勝マッシュルーム: 使うときに), 中田食品(豆腐: 使う時に), 帯広市立帯広南商高校クッキング部(調理ボラン

ティア), JR北海道(調理ボランティア)

A-3: 食事提供, 遊び場の提供, 傾聴, 学習支援(小学・中学), 子どもの調理体験, ボランティアの受け入れ(学生・一般), 農家など生産者との交流

A-4: 他のこども食堂・団体への橋渡し, フードバンク・おすそ分け

2-2-7. 釧路市(2団体)

「くしろ子ども食堂~いただきます~, ~あいぱーる~, ~てらいく~」(Aのみ)

A-1: a: 釧路町公民館, 釧路町健康福祉センターあいぱーる, 浄土寺, 松光寺, b: 毎月金曜日(月1回~いただきます~), (あいぱーる各1回), 2ヶ月1回浄土寺, 松光寺16時~19時, c: 幼児無料, 小中100円, 高・大学300円, d: (子ども)40名, (大人)20名, e: 約6名, f: なし

A-2: コープさっぽろ社会福祉基金(会場使用料8万円), 釧路町協働のまちづくり活動団体(会場使用料半額減免)

A-3: 食事提供, 託児, 遊び場の提供, 傾聴, 食事・調理に関する情報提供, ボランティアの受け入れ(一般)

A-4: フードバンク・おすそ分け

「みはら・かがやき食堂」(A, B)

A-1: a: 釧路市愛国191番地コアかがやき, b: 年10回(基本第2土曜日10時~14時), c: 大人300円, 子ども100円, 幼児無料, d: (子ども)50名, (大人)150名, e: 30名, f: なし

A-2: スーパーフクハラ(毎回1万円まで買い物支援)

A-3: 食事提供, 遊びの場の提供, 学習支援

(小学・中学), 体験活動 (一輪車)

B-1: 活動していなかった

B-2-2: 200名規模で三密に当てはまったため。

B-3: まだ再開できていません。場所が地域のコミュニティセンターで公的施設のため、ハードルが高く今のところ10月再開を目標にしています。

B-4: みんなが集う、会話する、食べるが目的の地域食堂ですので、少ない人数で(予約にする)距離を置いて無言で食べることが本来の意義に反してしまう。他の方法を考えているところです。

2-2-8. 苫小牧市 (1団体)

「NPO法人寺子屋こどもの未来 寺子屋みんなの食堂」(A, B)

A-1: a: 苫小牧市日新町4-4-6日新町内会, b: 毎月第2土曜日(食事)12時~13時, c: 中学生以下無料(「とま」を使用した場合), 大人300円, f: NPO法人

A-2: 企業(助成金80万~30万)

A-3: 食事提供, 遊び場の提供, 子育てに関する情報提供・共有, ボランティアの受け入れ(一般), その他(プログラミング教室)

B-1: 活動していた

B-2-1: a: 中学生以下無料, 大人300円, その他(小学生・未就学児に遊びの場, 学習支援をフリースクール用の場所で5月に4回実施), b: 子ども200名, 大人20名(スタッフ20名), c: 200食(1回当たり50食を計4回), d: 調理ボランティアの

三密防止で通常の4割, 手洗いうがい, アルコール消毒, マスク, 町内会館が使えなくなったので, 近くのお寺に協力を仰いで厨房と駐車場を貸してもらいドライブスルー形式で弁当を配布

B-3: 6月より町内会館も再開。三密防止で入場制限や食事のテーブルの配置変更の他, 保健所と相談して「感染症対策マニュアル」に順じて開催した。

B-4: 2波が来た時, またお弁当配布など月1回を毎週にした場合の予算オーバーやボランティアさん不足を感じる。

2-2-9. 中頓別町 (1団体)

「こどもトントン」(A, B)

A-1: a: 枝幸郡中頓別町字中頓別60番地1, b: 週3回(火・金16時~19時)(日11時~14時), c: 18歳以下無料, 同伴保護者300円, d: (子ども)3~4名, (大人)2~3名, e: 2名, f: 株式会社

A-2: 中頓別町(運営の事業委託料として月89,000円プラス食材費の補助として利用者1名あたりこども800円, 保護者500円), 認定こども園(こども園で収穫した農作物の提供)

A-3: 食事提供, 託児, 遊び場の提供, 傾聴, 子育てに関する情報の提供・共有, 高齢者と子どもの交流, 体験活動(調理), 食事・調理に関する情報提供(大人対象・子ども対象), 子どもの調理体験, ボランティアの受け入れ(一般), 聞き取り調査・見学の受け入れ

A-4: フードバンク・おすそ分け

B-1: 活動していなかった

B-2-2：客室スペースがもともと狭く、三密を防ぐ事が難しいと思ったので。また、町との委託契約を更新しなかった事も一因。

B-3：休止中。多分このまま再開しないと思う。

B-4：新たな場所を考えないと（コロナうんぬん以前に）狭い場所では不安、というが無理。

2-2-10. 東川町（1団体）

「東川ルンルン食堂」（Aのみ）

A-1：a：北海道東川郡東川町東町2丁目10-2, b：月に1回 10時～14時, c：大人300円, 子ども無料（高校生まで）, d：（子ども）25名,（大人）50名, e：15名, f：なし

A-2：キューピーみらいたまご財団（2019年度活動助成金20万円：今年度のみ）

A-3：食事提供, 遊び場の提供, 子育てに関する情報提供・共有, 子どもの調理体験, 聞き取り調査・見学の受け入れ

2-2-11. 芽室町（1団体）

「風の子めむろ」（Aのみ）

A-1：a：芽室町東3条3丁目, b：毎週火曜日14時～20時, c：無料, d：（子ども）20～30名,（大人）10名程度, e：10名, f：なし

A-2：芽室町（委託事業）

A-3：食事提供, 遊び場の提供, 傾聴, 学習支援（小学・中学・高校）, 子育てに関する情報提供・共有, 高齢者と子どもの交流, 体験活動（手話, 料理, プログラミング）, 食事・調理に関する情報提供（子ども対象）, 子どもの調理体験, ボランティ

アの受け入れ（学生・一般）, 聞き取り調査・見学の受け入れ, その他（マイクラフトカップ2019全国大会参加：プログラミング）

A-4：フードバンク・おすそ分け

3. アンケート回答の内容整理

本章では、前章でみたA・Bアンケートの回答について項目ごとに整理する。

アンケート回答の整理を行うにあたり、時期を①「コロナ禍前（Aアンケート対象時期）」, コロナ禍（Bアンケート対象時期）②「緊急事態宣言下」, ③「緊急事態宣言解除後」という3つに区分してみることにする。

3-1. 「コロナ禍前」

3-1-1. 取り組み内容

表3-1は、「コロナ禍前」のこども食堂の取り組み内容について、札幌市内外合わせた全体の比率が高い順番に並べたものである。まず表3-1全体を通して、すべてのこども食堂で食事提供が行われており、かつ食事提供だけではない様々な取り組みが行われていることが確認できた。具体的な内訳として、まず札幌市内外合わせた全体の85.2%（23団体）で大人一般のボランティア受け入れ、44.4%（12団体）で学生のボランティア受け入れが行われていることが確認できた。利益を生まないこども食堂の取り組みにおいて、ボランティアの協力は運営継続のために必要な資源となっている。また、日ごろ子ども達と接する機会が少ない人々に対し、子ども達や地域の実情の理解を促進するという点においてもボランティアの受け入れは有益で

ある。そして、33.3%（9団体）で高齢者と子どもの交流が行われており、異世代間の関係構築にも寄与していることが確認できた。

次に、全体の70.4%（19団体）で遊び場の提供、55.6%（15団体）で傾聴、37.0%（10団体）で子どもの調理体験、33.3%（9団体）で体験活動、29.6%（5団体）で農家など生産者との交流が行われていることが確認できた。一般的にこども食堂の取り組みは、食事支援（欠食支援や孤食対策、食育などの機能）に注目が集まりがちである。し

かし今回の結果では、食事支援だけではなく、子どもの居場所作りや遊び環境の確保、大人達との交流や良好な関係構築といった点についても寄与していることが確認できた。地域社会の変化とともに子どもの生活環境も急速に変化している昨今、こども食堂が上記の点に寄与するという一面は今後ますます重要なものになると考えられる。

また近年、こども食堂と学習支援が同時に実施される事例も増加している。今回の結果でも、全体の33.3%（9団体）が小学生へ

表3-1 コロナ禍前のこども食堂の取り組み内容

活動内容	札幌市内 (%) (全 16 団体)	札幌市外 (%) (全 11 団体)	全体 (%) (全 27 団体)
食事提供	16(100)	11(100)	27(100)
ボランティアの受け入れ (一般)	14(87.5)	9(81.8)	23(85.2)
遊び場の提供	10(62.5)	9(81.8)	19(70.4)
傾聴(大人子ども問わず)	9(56.3)	6(54.5)	15(55.6)
聞き取り調査・見学の受け入れ	10(62.5)	5(45.5)	15(55.6)
ボランティアの受け入れ (学生)	9(56.3)	3(27.3)	12(44.4)
子どもの調理体験	5(31.3)	5(45.5)	10(37.0)
子育てに関する情報提供・共有	5(31.3)	5(45.5)	10(37.0)
学習支援(小学)	4(25)	5(45.5)	9(33.3)
体験活動	5(31.3)	4(36.4)	9(33.3)
高齢者と子どもの交流	6(37.5)	3(27.3)	9(33.3)
農家など生産者との交流	6(37.5)	2(18.2)	8(29.6)
学習支援(中学)	2(12.5)	5(45.5)	7(25.9)
食事・調理に関する情報提供(子ども対象)	5(31.3)	2(18.2)	7(25.9)
食事・調理に関する情報提供(大人対象)	3(18.8)	3(27.3)	6(22.2)
学習支援(高校)	1(6.3)	2(18.2)	3(11.1)
子どもの送迎	2(12.5)	1(9.1)	3(11.1)
託児	0(0)	3(27.3)	3(11.1)
その他	昔遊び 食生活のお手伝い	プログラミング	

出所：筆者作成

の学習支援、25.9%（7団体）が中学生への学習支援、11.1%（3団体）が高校生への学習支援を行っていることが確認できた。これらには、こども食堂運営者自らが学習支援を実施するのではなく、学習支援を実施している他団体と連携を取っている事例も含まれている。この結果から、全体に占める割合は多くはないものの、こども食堂運営者が子どもたちの学習環境についても意識を向けて対策を講じていることが確認できた。

その他、保護者にむけた取り組みとして、全体の37.0%（10団体）で子育てに関する情報提供・共有、22.2%（6団体）で大人を対象とした食事・調理に関する情報提供が行われていることが確認できた。保護者を取り巻く環境も大きく変化している昨今、保護者との関係構築およびサポートに寄与しうる点に対する社会的必要性はより一層高まるものと考えられる。

表3-2は、こども食堂以外の取り組みや他団体との連携状況の内訳である。全体の18.5%（5団体）で他のこども食堂・団体への橋渡し、33.3%（9団体）でフードバンク・おすそ分けが行なわれていることが確認できた。地域の特性に大きく影響を受けるこども食堂の取り組みにおいて、同じ地域で活動する他団体との連携の強化は重要である。

またこども食堂間の連携は、こども食堂の運営基盤の強化および参加する子ども達の生活環境の保全としても意義をもつものである。今後、既存のこども食堂間の連携を維持しつつ、どのような経路をもって拡張、強化させていくかが検討すべき課題の1つになると考える。

3-1-2. 行政との関わり

表3-3は、こども食堂と行政の関わりの有無の内訳である。ここでの関わりとは、助成や事業委託など具体的な支援を受ける関係にあることを指している。全体としては、44.4%（12団体）が行政との関わりをもっており、55.6%（15団体）が関わりをもっていないことが確認できた。また、札幌市内外で比較してみると、札幌市外の方が行政との関わりをもっている団体の割合が高いことが確認できた。

以上の結果は、コロナ禍前のこども食堂の取り組み内容を明らかにしたものである。承知の通り、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、社会経済の様相は世界規模で変化している。当然ながら、その影響はこども食堂の取り組みにも大きな変化をもたらしている。次節のアンケート調査の整理では、コロナ禍におけるこども食堂の取り組み内容の

表3-2 こども食堂以外の取り組みや他団体との連携状況

活動内容	札幌市内 (%) (全 16 団体)	札幌市外 (%) (全 11 団体)	全体 (%) (全 27 団体)
他のこども食堂・団体への橋渡し	4(25)	1(9.1)	5(18.5)
フードバンク・おすそ分け	4(25)	5(45.5)	9(33.3)
その他	助け合い活動、ママ支援カフェ、地域交流サロン、他団体への出張料理、Sapporo チャイルド・ライツ		

出所：筆者作成

変化について確認する。

3-2. コロナ禍―「緊急事態宣言下」および「緊急事態宣言解除後」―

3-2-1. 「緊急事態宣言下」での取り組み内容

表3-4は、「緊急事態宣言下」における子ども食堂の活動の有無の内訳である。全体37団体のうち、40.5%（15団体）が活動しており、59.5%（22団体）が活動していなかったという結果が確認できた。

表3-5は、活動していた全15団体の取り組み内容の内訳である。全体の80.0%（12団体）が弁当・食材配布を行っていた。学習支援を実施している1団体を除き、すべての子ども食堂が会場を利用した取り組みを休止しており、新型コロナウイルス感染症対策としての三密防止に注意を払いながら活動を継続していたことが確認できた。

3-2-2. 「緊急事態宣言下」に活動しない理由

表3-6は、「緊急事態宣言下」に活動していなかった理由の内訳である。三密防止

（40.9%）や緊急事態宣言に倣い（4.5%）など運営者の判断により活動を休止しているだけでなく、会場利用不可（40.9%）や行政からの要請（13.6%）により活動を休止している団体もあることが確認できた。

新型コロナウイルスの脅威の1つに強い感染力をもつことが挙げられる。これにより、対人コミュニケーションに重点を置く取り組みは総じて専門的な対策もしくは内容の転換や休止を求められることとなった。子どもとの交流や関係構築に重点を置く子ども食堂の取り組みも例外ではない。感染拡大を防止する観点から、活動を休止した団体も数多い。コミュニティ形成という一朝一夕では成しえない取り組みに尽力していた運営者にとって、これまでに培ってきた人間関係の弱化を招きうる活動休止という判断は苦渋のものであったと推察される。

その一方で、感染拡大防止策として在宅ワークや休校が唐突に実施されたことにより保護者の家事負担の増加が社会問題として提起されており、そのサポートの担い手として子ども食堂に注目も集まっていた。このよう

表3-3 行政との関わりの有無

関わりの有無	札幌市内 (%) (全 16 団体)	札幌市外 (%) (全 11 団体)	全体 (%) (全 27 団体)
有り	5(31.3)	7(63.6)	12(44.4)
無し	11(68.8)	4(36.4)	15(55.6)

出所：筆者作成

表3-4 「緊急事態宣言下」での活動の有無

活動の有無	札幌市内 (%) (全 27 団体)	札幌市外 (%) (全 10 団体)	全体 (%) (全 37 団体)
活動していた	13(48.1)	2(20.0)	15(40.5)
活動していなかった	14(51.9)	8(80.0)	22(59.5)

出所：筆者作成

表 3-5 「緊急事態宣言下」での取り組み内容

活動内容	札幌市内 (%) (全 13 団体)	札幌市外 (%) (全 2 団体)	全体 (%) (全 15 団体)
弁当・食材配布	10(76.9)	2(100.0)	12(80.0)
学習支援	1(7.7)	0(0)	1(6.7)
公園遊び	1(7.7)	0(0)	1(6.7)
動画配信	1(7.7)	0(0)	1(6.7)

出所：筆者作成

表 3-6 「緊急事態宣言下」に活動していなかった理由

理由	札幌市内 (%) (全 14 団体)	札幌市外 (%) (全 8 団体)	全体 (%) (22 団体)
三密防止	5(35.7)	4(50.0)	9(40.9)
会場利用不可	6(42.9)	3(37.5)	9(40.9)
行政からの要請	2(14.3)	1(12.5)	3(13.6)
緊急事態宣言に倣い	1(7.1)	0(0)	1(4.5)

出所：筆者作成

な問題に対応したいと考え行動したこども食堂運営者も少なくはないことがアンケート結果から確認できた。運営者自身や参加者間の感染リスクへの心配も尽きない中で行われた弁当・食材配布などの取り組みは、子ども達や保護者のサポートとして大きく貢献したものと考える。

3-2-3. 「緊急事態宣言解除後」の活動内容

表 3-7 は、「緊急事態宣言解除後」のこども食堂の活動の有無の内訳である。全体の 78.4% (29 団体) が活動しており、21.6% (8 団体) が活動を再開していないことが確認できた。

表 3-8 は、「緊急事態宣言解除後」に活動している団体の取り組み内容の内訳である。「緊急事態宣言下」と比較し、14 団体が活動を再開していることが確認できた。活動している 29 団体のうち、62.1% (18 団体) は会場を利用せず弁当・食材配布のみを行って

いる。37.8% (11 団体) は、感染症対策を行いつつ会場利用を再開している。

4. コロナ禍におけるこども食堂の運営上の変化や新たな課題に関する考察

本稿のまとめとして、本章ではアンケート調査の結果から確認できたコロナ禍におけるこども食堂の運営上の変化や新たな課題について考察する。具体的には、①弁当配布による食事提供数の増加、②高齢運営者やボランティアへの影響、③対外的な関係性による影響という 3 点について検討する。

4-1. 弁当配布による食事提供数の増加

今回のアンケート調査から第 1 に、コロナ禍前のこども食堂の活動時と比較して、コロナ禍における弁当配布時の食事提供数が増加している団体があることを確認できた。

表 3-7 「緊急事態宣言解除後」の活動の有無

活動の有無	札幌市内 (%) (全 27 団体)	札幌市外 (%) (全 10 団体)	全体 (%) (全 37 団体)
活動している	23(85.2)	6(60.0)	29(78.4)
活動していない	4(14.8)	4(40.0)	8(21.6)

出所：筆者作成

表 3-8 「緊急事態宣言解除後」の取り組み内容

活動内容	札幌市内 (%) (全 23 団体)	札幌市外 (%) (全 6 団体)	全体 (%) (全 29 団体)
「解除後」から活動再開	10(43.5)	4(66.7)	14(48.3)
弁当・食材配布のみ	17(73.9)	1(16.7)	18(62.1)
会場利用	6(26.1)	5(83.3)	11(37.9)

出所：筆者作成

表 4-1 は、今回のアンケート調査においてアンケート A・B 両方に回答し、かつコロナ禍に活動していたと答えた団体の 1 回あたりの食事提供数の内訳である。ポレポレキッチン、トロワの畑（昼開催時）、ぐれ〜す、かば亭、いるか、真駒内みんなの子の 6 団体で食事提供数の増加が確認できた。食事提供数の増加要因としては、①弁当配布の方が気軽に利用できる、②家事負担の増加に伴い食事支援ニーズが増加したという 2 点が考えられる。①については、時間的・感情的な制約により従来のごども食堂には参加していなかったが弁当配布であれば受けたいというニーズがあり、それに対応したことで食事提供数が増加したと考えられる。②については、先にも述べたようにコロナ禍における保護者の家事負担が増加した中で、弁当配布を受けることで少しでも負担を軽減したいというニーズに対応したことで食事提供数が増加したと考えられる。

新型コロナウイルス感染症拡大によりごども食堂のコミュニティ形成は困難を極めてい

るわけだが、そのような中でも子どもや保護者、地域住民へのサポートを志す運営者の想いによって弁当配布という取り組みが実施されている。一見、取り組み内容の変化（食堂開設から弁当配布への変化）に注目しがちだが、そこにはごども食堂としての「連続性」もあるということを強調しておきたい。ごども食堂としての弁当・食材配布の取り組みは、困っている人々への食事支援だけではなく、これまでに培ってきた参加者やボランティアとの人間関係を維持するための取り組みとしても実施されているのである。その点から見て、ごども食堂での弁当・食材配布という取り組みは、コミュニティ形成が困難な中でも人々のつながりを絶やさないのための意義も有しているのである。

今後、「アフターコロナ」におけるごども食堂の取り組みやコミュニティのあり方を考えると同時に、コロナ禍を経て見えてきた新たなニーズや参加者にどのように対応できるのかということも検討すべき課題であると考えられる。具体的には、会場を利用しない場合に

表 4-1 食事提供数の変化

団体名	コロナ禍以前			コロナ禍		
	子ども	大人	合計	子ども	大人	合計
ポレポレキッチン	8	29	37	11	32	43
トロワの畑（昼）	10	3	13	13	4	17
ぐれ〜す	17	8	25	未記入	未記入	44
かば亭	70	30	100	100	95	195
いるか	15	30	45	未記入	未記入	80
真駒内みんなの子	17	13	30	25	15	40
寺子屋みんなの食堂	未記入	未記入	未記入	未記入	未記入	50

出所：筆者作成

おける参加者との関係の構築・維持方法（手紙やオンライン活用など）や弁当配布における有効的な方法の模索などが挙げられる。

4-2. 高齢運営者やボランティアへの影響

今回のアンケート調査から第2に、高齢運営者やボランティアへの影響があることが確認できた。新型コロナウイルスの脅威の1つに強い感染力をもつことが挙げられる。また、高齢者が感染したときの重症化リスクの高さも指摘されている。これらの脅威は参加者間に対してだけではなく、運営者間にも大きく影響し強い不安を与えるものである。

子ども食堂の特徴の1つとして、ボランティアの参加、特に高齢者のボランティアの参加によって運営が賄われているということが挙げられる。新型コロナウイルスの脅威はこの点に強く影響し、高齢運営者やボランティアの参加を極めて困難なものにさせている。B-4の質問項目にて、「デリスホーム」がボランティア離れ、「りんごの巣」「子ども・地域食堂ななかま堂」が高齢運営者の感染の不安について記述している。

当然ながら、コロナ禍においては高齢運営者やボランティアの参加を安易に促せるもの

では決してない。しかし、このような状況だからこそ、日々人間関係を絶たずに、互いに協力できる体制を維持・強化することの重要性は増していると考ええる。特に、新型コロナウイルスの重症化リスクの相違により高齢者と若者の意識のギャップ、ときには対立すら生じる可能性がある状況において、世代間の関係強化の必要性はますます高まるものと考えられる。今後、そのような状況の中で子ども食堂がどのような役割を果たせるのか、どのように活用されるべきなのかといった点について検討し実践していく必要があると考ええる。具体的には、運営者間の連絡手段の拡充や有効的な感染症対策に関する情報収集・共有、対策資材（マスク・手袋、除菌グッズ、パーティションなど）の確保などが挙げられる。

4-3. 対外的な関係性による影響

今回のアンケート調査から第3に、対外的な関係による様々な影響が確認できた。表3-6にあるように、今回のコロナ禍における活動しない理由について、三密防止（感染拡大への危惧）と並び9団体が会場利用不可を理由に挙げている。これらは、会場として

公共施設や民間施設を借りて活動していることに起因している。専用の会場を確保していることが少ないこども食堂において、会場を管理する団体や同じ会場を使用する他事業との関係が活動の有無に大きな影響を与えることが確認できた。専用の会場ではない以上、三密やクラスター対策といった開催している“そのとき”の対策だけでなく、会場利用の“前後”にも配慮と対策が必要である。具体的には、こども食堂の前にどのような団体・事業がその会場を利用していたかの確認、使用後の入念なウイルス除去作業などの必要が挙げられる。これらの負担をどのように補うかといった点についても検討が必要であると考える。

その他、表3-5でみたように、「緊急事態宣言下」に12団体（札幌市内10団体、市外2団体）が弁当・食材配布を行っていたわけだが、これを可能にした要因の1つとして行政や様々な団体からの支援や協力があったことが挙げられる。例えば2020年5月には、札幌市が「札幌子ども食堂緊急応援補助金」を公布し、コロナ禍に弁当配布を行っているこども食堂に向けた緊急支援を行った。また、様々な企業・飲食店が弁当配布活動に対し物資（包装容器の提供など）や食材などの支援、弁当調理の協力（飲食店による弁当の提供など）を行っている。

食事提供という点からみると、従来のこども食堂の取り組みもコロナ禍における弁当・食材配布も同様のものとみえるかもしれない。しかし、実務内容（その場で食べる食事とテイクアウト可能な食事の調理法や配布方法の相違など）や必要資材（調理器具や包装容器など）、参加者の状況（参加者の変化や

ニーズの増加など）に着目すると、必要となるものは全く異なるのである。今後、そのような実務の変化への対応方法についての検討が必要であると考ええる。

おわりに

新型コロナウイルス感染症拡大がもたらした被害や影響、「新しい生活様式」として人々に求められる生活の変化はとても大きいものである。本稿では、そのような状況下でも子ども達や地域住民に寄り添い、柔軟に対応してきたこども食堂の取り組み内容を明らかにし、運営上の変化と新たな課題について考察を行なった。

新型コロナウイルス感染症の拡大ははまだ終息の兆しを見せず、今後もこれまで以上に慎重な対策が求められるであろう。そのような状況の中でどのような取り組みを行う必要があるのか、そしてこども食堂が育んだ人々のつながりを維持・拡大させるためにはどうすればよいのかということについて、運営者だけでなく地域住民も共に検討し実践していく必要があると考える。コロナ禍におけるこども食堂の取り組みは、困難な状況下だからこそ改めて新しい地域コミュニティの形成・強化が肝要であるということを示唆している。

最後に、本稿の執筆にあたってアンケート調査を受けていただいたこども食堂運営者の皆様、こども食堂北海道ネットワーク事務局の皆様からご協力を賜った。心より感謝を申し上げますとともに、皆様の今後の活躍についても引き続き注目させていただきたい。

引用・参考文献およびホームページ等

NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえホームページ <http://musubie.org> (最終閲覧日 2021 年 1 月 10 日)

子ども食堂北海道ネットワークホームページ <https://ks-hokkaido.net> (最終閲覧日 2021 年 1 月 10 日)

農林水産省ホームページ <https://www.maff.go.jp> (最終閲覧日 2021 年 1 月 10 日)

北海道新聞 2020 年 12 月 29 日。

伊藤好一 (2019) 「北海道における子ども食堂の現状と協同組織の支援体制について」生協総合研究所『生協総研賞・第 15 回助成事業研究論文集』, pp.10-26。

今井一貴 (2018) 「社会的連帯活動 (子ども食堂・おとな食堂) から仕事おこし・みんなのおうち構想へ」協同総合研究所『協同の発見』第 309 号, pp.27-32。

近藤博子 (2016) 「地域をつなぐ「気まぐれ八百屋だんだん」の子ども食堂」協同総合研究所『協同の発見』第 279 号, pp.35-43。